月刊 しばうら

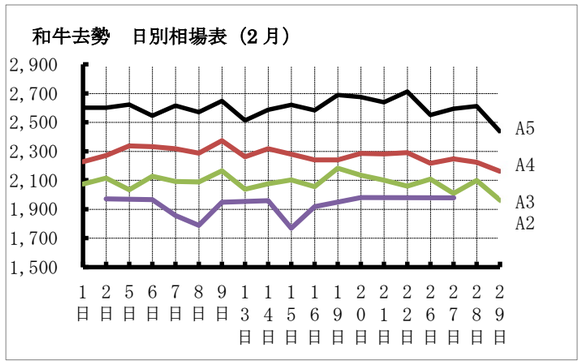
2024年 3月号

牛肉営業部

＜2月の相場動向＞

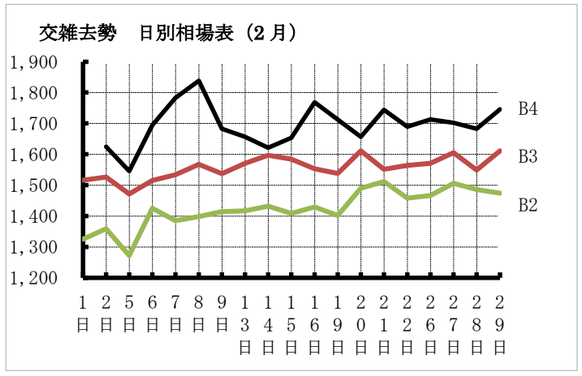
2月は1年の中でも牛肉需要が低迷する月のひとつで、相場が前月より落ち込む傾向にあり、今年も同様に前月を下回る価格で推移した。しかし、落ち込み具合は例年よりも緩やかで、前年実績を上回っている。新型コロナウィルス感染症が5類に分類されてから1年と経過していないことから、荷動きが悪い中でも、昨年との比較では落ち込みが緩いという結果となった。

また、東京食肉市場において冷蔵庫冷却器の入れ替え工事で生体のと畜頭数について制限していたため、上場頭数が少なかったこと（前年比93.1%）にも要因がないとは言えない。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,603円	+57円	102.2%	-21円	99.2%
A4	2,278円	+78円	103.5%	-60円	97.4%
A3	2,087円	+126円	106.4%	-33円	98.4%
A2	1,933円	+202円	111.7%	+37円	102.0%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,686円	+75円	104.7%	+37円	102.2%
B3	1,556円	+176円	112.8%	+37円	102.4%
B2	1,431円	+228円	119.0%	+27円	102.0%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	―	―	―	―	―
B2	877円	-64円	93.2%	―	―

＜3月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、1月の輸入量は前年同月比8.4%増の4万3,258tで、うちチルドは同5.5%増の1万6,927t、フローズンは同10.3%増の2万6,291tと共に上回った。

農畜産業振興機構によると2月の牛肉輸入数量は、前年同月比7.6%減の3万5,100t（チルド9.7%増・冷凍16.9%減）、3月は同8.9%減の3万3,500t（チルド16.7%減・冷凍1.5%減）と予測している。3月のチルドは国内需要が低迷下にあるため輸入量が減少すると見込んでおり、フローズンについては、豪州産は増えるものの、その他の国からの輸入量は減ることから、前年同月を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,143	5,453	149.3%
	米国	7,497	8,555	87.6%
	その他	1,327	2,073	64.0%
	合計	16,967	16,081	105.5%
フローズン	豪州	12,695	9,734	130.4%
	米国	7,945	7,789	102.0%
	その他	5,651	6,300	89.7%
	合計	26,291	23,833	110.3%

出典：食肉速報　　単位：t

＜3月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による3月の出荷予測頭数は、全体で前年同月比97.6%の8万6,800頭で、品種別にみると和牛は同3.5%減の3万9,100頭、交雑種は同5.7%減の2万600頭、乳用種は同11.6%減の2万5,800頭と予測している。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は7,540頭を予定しています。

＜3月の牛枝肉相場見通し＞

最も牛肉需要が低迷する2月を終え、3月は卒業式シーズンに入り、例年需要が好転することから、相場は回復基調となる。ただ、各種物価高による消費意欲の低下は継続することが見込まれるため、大幅な回復には至らないとみられる。

下旬になると各企業の多くが決算期を控え、在庫を抑える傾向になることから、回復した相場はトーンダウンすることが予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,800	B4	1,550～1,650
A4	2,350～2,450	B3	1,400～1,500
A3	2,100～2,300	B2	1,250～1,350
A2	1,900～2,050		
乳牛去勢			
B3	950～1,050		
B2	800～900		

豚肉営業部

1月の全国と畜頭数は、141万4,172頭(前年同月比2.3%増)と前年を上回った。また、1月の豚肉通関数量は7万2,098t（同3.8%減）と前年を下回り、前月比では6.4%の増加となった。内訳は　チルドが3万4,661t（0.3%増)、フローズンは3万7,437t（7.2%減)。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
比	104%	96%	112%	92%	103%	96%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

2月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	15,116	95.9%	デンマーク	3,437	67.1%
カナダ	16,387	103.2%	スペイン	12,110	93.6%
メキシコ	3,158	108.4%	メキシコ	4,962	91.2%
			アメリカ	3,996	141.0%
			カナダ	3,097	69.1%
合計	34,661	100.3%		37,437	92.8%

単位：t

＜2月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	67,700	519	507	675
2日	64,300	546	538	979
5日	65,700	601	587	804
6日	67,900	616	595	969
7日	67,600	651	629	641
8日	69,100	654	635	586
9日	65,500	640	618	999
平均	66,829/日			808/日

相場は連休前の手当てもみられ、5日には600円台まで上昇した。末端の消費は芳しくない状況にあったが、輸入ポークの供給が依然としてひっ迫した状況にあり、国産物への代替需要が増加した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	75,800	610	588	976
14日	72,400	603	586	1,031
15日	70,200	602	586	1,039
16日	68,900	601	583	1,066
19日	72,000	607	589	986
20日	72,200	605	591	988
平均	71,917/日			1,014/日

連休明けの手当てもあって相場は600円台の底堅い展開が継続した。例年、需要が低迷するこの時期としては想定以上の高値となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	71,700	602	585	924
22日	73,100	586	555	1,015
26日	69,200	573	539	917
27日	69,400	566	539	1,024
28日	68,900	567	527	757
29日	67,300	538	509	988
平均	69,933/日			938/日

関東では気温が20度を超える日がでるなど、気温が一気に上昇したことから、鍋物需要が落ち着き、スライス商材の引き合いは弱まった。一方で量販店などの決算期の特売もあり、スソ物を中心に荷動きは堅調となった。

＜3月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和6年3月の肉豚出荷予測では143万7,000頭（前年同月比97.8%）と予測している。

東京食肉市場の3月集荷予定せり頭数は1万7,700頭、1日あたりでは約885頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万6,600t（同96.5%）で、内訳は冷蔵輸入量が3万1,900t（同88.6%)、冷凍輸入量は3万4,700t（同105.1%）と予測する。

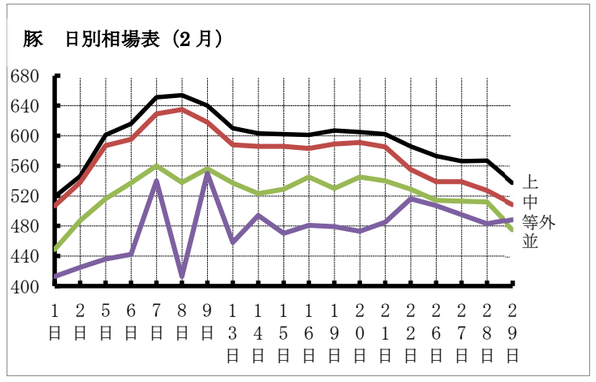
冷蔵品輸入量は円安の影響に加え、北米産の現地相場高などから前年同月を大きく下回ると予測する。また3ヵ月平均でも前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は北米産に加え、その他の国からの輸入量が増加していることなどから、前年同月をやや上回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

気象庁の予報によると3月上旬の気温は平年並みで中旬以降は平年より高い気温の日が多くなるとしている。下旬にかけては桜前線と共に歓送迎会などのイベントによる焼材の引き合いの強まりに期待が高まる。

供給面では今年は暖冬によって前倒し出荷が多かった反動から、3月は在庫が少なくなることが予想され、輸入量も現地相場高と円安により不安定なため、決算期ではあるが国産枝肉相場は底堅い展開が予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は560円前後、中物平均価格540円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127